

大阪公立大病院「深まる対立」

写真は朝日 16 日朝刊「大阪市内版」。まさに異常事態である。大阪公立大の「内紛」を伝えているので紹介する。

大阪府立大と大阪市立大が統合して 4 月に発足した大阪公立大で、医学部付属病院長がいない異常事態が続いている。市大医学部出身の元学長を推す教授らに対し、新大学の運営法人は元学長を「任命することはない」と言明。教授らの側は理事長らに辞任を文書で求めるなど、双方とも引かない構えだ。

新病院長をめぐるっては、市大医学部の教授や外部の大学病院長らでつくる選考会議が 1 月末、当時の学長だった荒川哲男氏を候補者に選んだ。荒川氏は市大医学部でキャリアを積み、今年 3 月まで学長を務めていた。

だが、公立大学法人大阪の西沢良記理事長は 3 月、「天下りの的で大学のガバナンスとして良くない」と、荒川氏の任命を拒否した。西沢理事長も市大で医学部長などを歴任している。

結局、4 月の新大学発足までに病院長は決まらず、法人側は経営審議会の外部委員からなる「ガバナンス改革部会」を発足させた。その改革部会は 5 月、審議結果を経営審議会に報告した。「選考会議の推薦の手続きに不備はない」としつつ、荒川氏の任命は「府民・市民からの不信感につながりかねず、絶対に避けるべきこと」と断定。その理由としては、大阪府・市が新大学の設立にあたって「理事長・学長のガバナンス強化」「外部人材の積極的な登用」を求めていたことや、新大学が「公的機関」であることを挙げた。

一方で、任命権者である西沢理事長が「水面下で、副院長らに立候補の要請をするなど事前に動いた」ことについて「不適切」と指摘した。法人側が、ガバナンス改革を踏まえた新しい選考規定を作っていなかったことも問題視した。

この報告を受けて、法人側は改めて「荒川氏は任命しない」と、選考会議長で医学部長の河田則文教授に伝達。その上で 6 月 9 日、西沢理事長らは混乱を招いた責任として報酬の一部を自主返納すると発表した。河田教授を中心とする医学部の教授らも譲らない。10 日、西沢理事長らの辞任を求める文書を、医学部の教授や病院幹部ら計 64 人の署名をつけて、法人側に提出した。河田教授はこの日、記者会見を開き、選考会議が規則に従って病院長候補を選んだにもかかわらず、「西沢理事長が恣意的判断で覆すことは許されない」と訴えた。「なぜ西沢理事長が荒川氏の任命を拒んでいると思うか」と記者から問われると、「荒川氏は大学運営に精通し、人脈も広く、明確にものを言う方。やりにくさを感じるのではないか」との考えを述べた。法人側は「事態の収拾に全力を尽くす」としているが、溝はなかなか埋まりそうにない。



(2022 年 6 月 20 日)